

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成28年度 病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、発生予察注意報第1号（サトウキビのイネヨトウ）を発表します。
なお、本情報は病害虫防除所ホームページ（www.jpjn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

病害虫発生予察 注意報第1号

- 1 農作物名 サトウキビ
2 害虫名 イネヨトウ
3 発生地域 奄美地域
4 発生量 多

5 注意報の根拠

- (1) 5月の春植・株出ほ場における芯枯れ被害発生ほ場率は73%（前年81%， 平成27年79%）と平成27年並みであったが、徳之島・沖永良部島・与論島では発生程度の高いほ場が認められ、被害度及び芯枯れ被害茎率も平成27年より高い状況にあったことから（第1表）、技術情報第6号（5月23日付け）を発表し、適切な防除対策を施すよう関係機関に周知した。
- (2) 6月上旬の調査では、芯枯れ被害発生ほ場率が90%（前年79%， 平成27年81%）と平成27年よりやや高く、徳之島・沖永良部島・与論島では芯枯れ被害茎率も高い傾向で推移している（第1表）。
なお、奄美地域全体における中発生以上のほ場率が46%（平成24年6月：28%）と、直近でイネヨトウの注意報を発表した平成24年の6月よりも高い状況にある（第1表）。

6 発生生態及び被害

- (1) 奄美地域では年4～5回発生する。
- (2) 卵は葉鞘の内側に20～50個の卵塊で産みつけられ、孵化した幼虫は集団で葉鞘の内側を食害する。中齢以降になると他の茎に食入し、茎内部を数節にわたって暴食する。
- (3) 生育初期に加害されると芯枯れを起こす。また、初期被害は、ほ場周縁部で多い傾向にあり、その後、ほ場内でスポット状または畦に沿って被害が拡大する。
- (4) 被害ほ場及びイネ科雑草地が発生源となり、隣接するほ場に侵入する。

7 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるので除草を徹底する。
- (2) 多発時には7～10日間隔で複数回散布する。
- (3) 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。
- (4) 薬剤については、平成28年度技術情報第6号（5月23日付け）を参照。
- (5) 農薬の使用にあたっては、表示ラベルをよく確認の上、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努める。

第1表 春植・株出ほ場におけるイネヨトウによる被害発生状況調査結果（6月，5月）

	年次	調査 ほ場数	発生ほ場 率(%)	発生程度 ^{注1)} 別ほ場率(%)					被害度 ^{注2)}	被害茎率 (%)	
				甚	多	中	少	無			
奄美大島	本年	6月	80	0	3	26	51	20	28	3.9	
		5月	57	0	0	20	37	43	19	2.2	
	前年	6月	80	0	0	20	60	20	25	2.8	
		5月	77	0	0	14	63	23	23	2.9	
喜界島	本年	6月	100	0	0	10	90	0	28	1.8	
		5月	60	0	0	20	40	40	20	2.4	
	前年	6月	70	0	0	0	70	30	18	1.1	
		5月	90	0	0	30	60	10	30	3.0	
徳之島	本年	6月	100	0	30	50	20	0	53	8.9	
		5月	90	10	10	20	50	10	40	7.2	
	前年	6月	40	0	0	10	30	60	13	2.1	
		5月	60	0	0	40	20	40	25	3.5	
沖永良部島	本年	6月	100	0	50	20	30	0	55	10.1	
		5月	100	10	50	20	20	0	63	11.9	
	前年	6月	100	0	0	20	80	0	30	2.8	
		5月	100	0	0	44	56	0	36	5.0	
与論島	本年	6月	100	0	10	80	10	0	50	7.4	
		5月	100	0	40	50	10	0	58	8.5	
	前年	6月	100	0	20	40	40	0	45	7.6	
		5月	90	0	0	50	40	10	35	4.8	
地域全体	本年	6月	90	0	13	33	44	10	37	5.6	
		5月	73	3	13	24	33	27	33	5.0	
	前年	6月	79	0	3	19	57	21	26	3.1	
		5月	81	0	0	28	53	19	27	3.5	
	平年 ^{注3)}	6月	-	81	0	13	26	42	19	33	4.7
		5月	-	79	2	12	23	42	21	33	4.6
H24年	6月	50	82	0	4	24	54	18	-	-	

注1) 発生程度 甚:被害茎率 21%以上, 多:被害茎率 11~20%

中:被害茎率 6~10%, 少:被害茎率 1~5%

注2) 被害度は, 発生程度別ほ場率にそれぞれ甚, 多, 中, 少ごとに重み付けをした値

$$\text{被害度} = \frac{4(\text{甚のほ場率}) + 3(\text{多のほ場率}) + 2(\text{中のほ場率}) + 1(\text{少のほ場率})}{4}$$

注3) 平年は, 平成18年から27年の平均値



写真1 イネヨトウの幼虫



写真2 芯枯れ被害を受けた株